



郡上北高校 探究通信

no.2

今年度は、研究主題として「読解力の育成」～わかる授業の展開と読解力の育成をするための手立ての追求～として提示しております。昨年度のアンケート等の結果より、協同的な学び及びわかる授業が生徒の自己肯定感の向上につながるということがわかっています。今年度は、

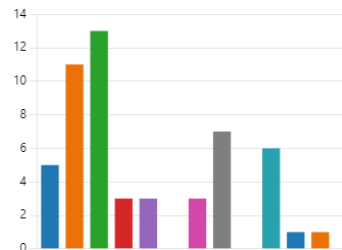
- ・生徒の基礎学力の定着及び理解を深める授業手法として何が良いのか
- ・生徒が主役である授業をいかにして、学び合える環境にしていけるか
- ・わかりやすい授業を目指した授業の手法についての情報交換や教材の交流 など

それらが、複合的に絡む「探究活動について」を重点に公開授業週間や研修会など行い、前期が終了しました。

授業者と参観者別のアンケート結果を以下に示します。

<授業者>

「今年度、授業で力を入れていること(意識していること)」



⇒「ペア、グループ活動」「教えあい」に力を入れている先生が多数を占めていました。今まで多数を占めていた ICT については自身の授業に合った活動として定着しているのではないかと感じました。

<参観者>

「参観の際、どのような視点で見ますか?」についての回答一部抜粋

- | | |
|--|------------------------------|
| ・授業展開のテンポ | ・生徒がどれだけ理解しているか |
| ・どのように生徒の興味を引いたり、知的好奇心を刺激したりする授業をしているか。
(雑談や教科の内容と日常生活を結び付けるなど) | |
| ・生徒の思考や学びに向かう姿勢 | ・教員の指示に対する生徒の反応 |
| ・プリントの使い方 | ・ICT の使い方 |
| ・教員側の意図と、生徒たちにどのような学びがあるか。 | ・生徒の思考力や表現力を伸ばす働きかけであるかどうか |
| ・自分の授業にどう生かせるか、どのような発問が適切か | ・生徒がわかったとなる瞬間は、どのようなときか |
| ・生徒が主体的に活動しているか | ・生徒の反応 |
| ・授業の流れ、生徒の集中度、発問の適切さ | ・生徒の行動観察(教科、科目によつての違い) |
| ・教科独自の指導法 | ・高校レベルの専門的な学びをどんな方法で実現しているか。 |
| ・生徒の授業内容への関心度 生徒に分かりやすく、集中してやっているか。生徒が、理解しているか | |
| ・生徒目線でどんな授業が分かりやすいか考えながら参観する | |
| ・生徒の活動風景。生徒が戸惑っている時の先生の声掛け | |

高鷲小学校の授業研究会では【子どもたちの学びの姿から学ぶ】【「授業者の指導の様子」を中心に見るのではなく、「子どもが学ぶ様子」を見る】ことなどを大切にされています。今回のアンケート結果からも生徒目線での観察やその際の教員のアプローチについて大切にしている印象を受けました。

公開授業期間で学校外から参観にみえた先生から以下のご感想をいただきました。

- ・全てのクラスで生徒が真剣に授業に向かっていて感心した。
- ・落ち着いた雰囲気の中で安心できる環境だと感じた。
- ・生徒が他の地方の事例を参考に自分の地域を見直していたところ。「この問題は、最終的に何が言えたらいいってこと?」「最終的に言いたいことは何?」と、証明問題の着地点を問うことで、数学の問題文の読解と解答の見通しをもつことができると感じました。
- ・生徒同士が交流するときも「この問題って、最終的にこうなったら OK なんだよね?だから、計算した結果がこうならいいんだね?」と、論理的に考えながら交流をする姿があったため、中学校での証明問題に活かしたいと思いました。
- ・目標をもって決めた道へ進むことで、またそこで出会う仲間と頑張れる雰囲気を感じました。地域の方々の協力を得て子どもたちに豊かな活動を保障していくことの大切さを感じました。ありがとうございました。

「公開授業期間中、参観しましたか?」に対し約75%が前期中に参観したと回答しました(右図)。忙しい中では、参観しようと決意するだけでも大変な労力が必要です。しかし不思議なもので、どんなに経験年数を重ねても、他の先生の授業を見ると、必ず学ぶことがあって、「参観しなきゃよかった」とはならないものです。研究授業、公開授業週間や一日授業研究会等が後期にはありますので、参観の視点等を参考にいただきながら、わかりやすい授業の実現に向けて取り組んでいただければと思います。

